循環器内科 Cardiovascular Medicine

心臓と血管の病気：最先端医療から生活指導まで

心臓と血管の病気を抱えた患者さんにあい対するに際し、最先端の技術を含め、ひとりひとりの患者さんに最善と思われる医療を提供することを目標としています。さらに、最新の研究を通じて新たな治療法を開発し、世界に向けての情報発信を行っています。

診療体制

月曜日から金曜日まで5名前後の医師が外来で診療しています。一般病床46床とCCU(心臓血管疾患集中治療部)6床の入院病床を有し、約10名の日本循環器学会認定循環器専門医を含む循環器病の各領域のスペシャリストが診療に当たっています。

対象疾患

狭心症・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症・大動脈疾患・不整脈・心不全・肺動脈疾患・高血圧症などの心臓と血管の疾患全般を対象とします。救急患者さんについては、24時間体制で対応いたします。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

平成22年の入院延患者数は17,112人、平均在院日数は10.9日。

高度医療の取り組み・研究

①冠動脈疾患に対する薬剤溶出性ステント治療
狭心症や急性心筋梗塞などに対し、冠動脈カテーテル治療を積極的に行っています。平成22年の冠動脈カテーテル治療数は351例です。

②末梢血管疾患に対するカテーテル治療
動脈硬化により下肢の動脈などに狭窄がある方に対し、カテーテルによる治療を行っています。平成22年の治療数は94例です。

③重症心不全に対する両心室ペーシングと植え込み型除細動器
重症心不全に対する両心室ペーシングによる治療を行っています。平成22年の治療数は54例です。また致死性不整脈による突然死を予防するため植え込み型除細動器の手術を行っています。

④カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)による不整脈治療
心房細動などの不整脈に対しカテーテルアブレーション(心筋焼灼術)による不整脈治療を行っています。平成22年の治療数は265例です。

⑤大動脈瘤に対するステントグラフト治療
胸部や腹部の大動脈瘤に対しステントグラフトを用いた低侵襲治療を行っています。平成22年の治療数は64例です

消化器内科 Gastroenterology and Hepatology

肝胆膵も胃も腸も、腹部のトータルケア

肝臓、胆道、膵臓、食道から胃～小腸～大腸と、腹部の幅広い領域の病気を診る極めて臨床的な科です。また、日本人の死亡原因第一位である癌の多くは消化器癌であることから、胃、大腸、肝癌、膵癌などの診断と治療に精力的に取り組んでいます。

診療体制

京都大学病院における消化管・肝胆膵疾患の内科診療のすべてを担当しており、外来患者は年間約3万人にのぼります。また、外来検査として腹部超音波検査に加え、内視鏡部と協力して消化管内視鏡検査も担当業務の大きな柱としています。

対象疾患

消化器系の癌（胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌など）、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）、慢性肝炎・肝硬変、急性・慢性膵炎、胆道結石、胃・十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、大腸ポリープなど。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

C型肝炎に対するインターフェロン治療、B型肝炎に対する抗ウィルス治療、肝癌へのラジオ波焼灼術、炎症性腸疾患への緩解導入・維持療法、早期食道癌や早期胃癌に対する内視鏡的切除術、膵胆道系疾患に対する内視鏡治療などに積極的に取り組んでいます。

高度医療の取り組み・研究

①炎症性腸疾患に対する集約的治療
潰瘍性大腸炎、クローン病をはじめとする炎症性腸疾患に対して、免疫抑制剤治療や腸内細菌製剤を用いた新しい集約的治療の取り組みを進めています。

②新しい内視鏡治療法の開発
早期食道癌および早期胃癌などに対する内視鏡治療に積極的に取り組んでおり、粘膜下層の剥離には新しく開発した剥離ナイフを用いて良好な成績をあげています。

③C型慢性肝炎に対する至適治療法の探索
C型慢性肝炎に対するペグインターフェロン+リバビリン併用療法における、薬剤の至適投与方法の決定のための臨床試験を進めています。